てんぷ新聞

'10.12.No16
発行 市岡日出
責任 0883-88-5292

よろこんでます 国の歴史的風致認定

この度、国から「歴史的風致維持向上計画」の認定を県内初で認められるようです。とりあえずは、喜こばしい事ではあります。なぜなら、国の交付金、補助金を活用して、落合地区の民家、石垣の保全や耕作放棄地の活用促進などに取り組むことが出来るらしいから。

ただ気になる事があります。財政難を大きな理由で合併しながら、すでに四年がすぎたが、今だに補助金に依存した体質は変わらない様子。確かにお金がなければ出来ない事は少なくありません。しかし、この補助金がある時だけのイベントや事業が繰りかえされている。

祖谷と平家伝説

地域への愛着や地域の人々の熱意が中心にあるならば、補助金がストップしても創意工夫をして継続した取り組みとなり、地域の活性化となるはずです。お金に頼って、お金を稼ぐことが第一になっているのが現状では、またかという印象が強くなってくる。まってや、国や県などから認定されなければ動きださない地域促進とはなんなのでしょうか。

身近な例として、落合地区に茅葺を屋根の復活の第一歩として、長岡家が茅葺きとしてよみがえり、田舎の風景の宝となりました。が、今だに活用されていません。分閉されて、管理人を置き給料を支払っているようですが、本当に、こんな状況で落合地区、祖谷の活性化になっていくのでしょうか。

まずは、私達、祖谷の人々が、何が大切で、どうしたいのかが問われる。

火火し体験

十一月十四、三好市福祉大会が池田体育館等で開催され、東祖谷からも、祖谷そば、ジャガキ、タコ焼や、小規模作業所製品の作品、竹ボウキ等で参加。大変好評のようでした。

また、室内では、名頃地区で実施している、かかしの里作りでは、かかし作りの体験コーナーを設けて参加しました。

かかしのおばあちゃんとお孫さんも参加しての体験。オープン前から、二人の人が希望し、熱心に自分のかかしを創作しました。

十時からも希望があり、先生の恵さんは直ぐ、はんの時間もない程で大変でしたが、名頃のかかしの人気度はすごいものです。

もうひとつ、名頃や祖谷の中で、熱心に作り、かかしの里をもりあげてほしいものと痛感しました。

お手伝いはしたけど、大変でした。

毎年ある福祉大会、次は、かかしの里コーナーでもやって、百人のかかしで参加したいものです。